

## アジア・地区農村社会研究ワーキンググループの発足

松田（熊谷）苑子

昨夏ペンシルベニア州立大学で開かれた国際農村社会学会（IRSA）第八回大会のプログラムの一環として、大会二日目（八月二三日）は地区別の会合（Regional Assembly）が組み込まれていた。地中海地区、アジア地区、ラテンアメリカ地区、ヨーロッパ地区及びアフリカ地区的会合である。アジア地区以外には恒常的な組織（association）が二つ（societyと称する）が形成されている。アジア地区

にかんしていえば、前回ボローニャにおける第七回大会の際アジアからの参加者が会議のあいまに顔を合わせて交流について話し合つて以来のことである。ただし、この四年間、アジア地区農村社会学者のネットワーク形成にかんして、村研国際交流委員会委員長の高橋明善会員により交渉と準備が進められてきていたのはご存じのとおりである（通信第一六四号・一六七号参照）。高橋会員は国際農村社会学会アジア地区選出理事の王仁槿氏（韓国）と連絡をとりながら、昨四月にはアジア各国の農村社会学者に書簡を送り、第八回大会への参加を呼びかけネットワーク形成を提唱された。

八月一三日の会合には、韓国、台湾、タイ、フィリピン、インド、インドネシア、日本などからの参加者約五〇名が集った。ネットワークではなく、最初からアソシエーションと呼べるような構成と活動内容をもつ組織をスタートさせてはどうかという声もあったが、議論の結果、現実的な路線として高橋明善会員の用意された組織案にのつとった、アジア地区農村社会学ワーキンググループ（Asian Rural Sociology Working Group）の発足が決定された。ワーキンググループの目的は、アジア各国の農村社会学者の交流と相互理解である。同時に、国際農村社会学会からはヨーロッパ農村社会学会など各地区的アソシエーションに対するのと同じようにニュースが提供されることになった。ワーキンググループのメンバーはこのグループへの参加費をおさめることをつうじて国際農村社会学会へもつながるのである。今のところ各国の研究者への呼びかけは緒についたばかりであるが、日本からは、先般の牛深での大会の折に三〇数名が参加を表明している。アジア地区以外の組織のメンバーで、アジア地区で調査研究を行つてゐる研究者の参加も歓迎している。

このようなグループの形成により、国際的共同研究、比較研究への、相互理解による実りある途が拓かれていくことと望まれる。

ワーキンググループの議長国は日本で引き受けてほしいという要望が強かつた。日本からの参加者たちも断わり切れず、これを了承し、鳥越会員が議長の任にあたられることになった。次回の国際大会までの四年間、組織づくりをされる。また、国際農村社会学会のアジア地区選出理事のポストのうちインド代表が任期満了で退任せられたためにこのワーキンググループの代表として鳥越氏がアジア地区選出の三人の理事のうちの一人となることになった。

（清泉女子大学）